

研修報告書 No27

研修施設： 檮原町立国保檮原病院
津野町立国保杉ノ川診療所
昭和大学 研修医

今回地域医療研修として高知県檮原町で1ヶ月間、地域研修をさせていただきました。檮原は高知県西部の山間部に位置する町で、高知市内からは、車で1時間半近く要する場所にあります。そのため、檮原病院はまさに地域医療を体現する病院でした。

研修内容としては、病棟業務の他に、内科・外科・小児科問わずに行う外来診療、特別養護老人ホーム・身体障害者療養施設での診療、在宅への往診、杉の川診療所での診療等を主体に、その他にも、多職種スタッフ合同で週1回行われる患者さんの退院後の方針を検討したり、介入出来る医療・保健・介護のサービスの意見交換を行うケアプラン会等にも参加させていただきました。また、8月というお盆の時期であったこともあり、檮原町やその周囲の地区で行われるお祭りにも参加させて頂いたことで、地域住民の方々との交流を深める機会も得ることが出来ました。さらには、高知市内で行われた医学生の地域実習報告検討会への参加もさせていただきました。幅広く高知の地域医療への取り組みを肌で感じさせてもらい、地域医療をより良くするべく、多くの方が携わり、また次世代の地域医療を担う研修医や医学生への教育にも力を注いでいる事が分かりました。

都市部の大学病院での医療しか目の当たりにしたことのなかった自分にとって、檮原での研修内容は新鮮なものばかりでした。また、本来医師に求められている事を改めて考えさせられました。恐らく、地域医療“らしい”地域医療を研修しなければ、あまり考えなかった事と思います。

今回の研修で感じた事は、地域医療というのは地域を知り、地域と共に生きるということであり、成り立っているということです。患者さんの家庭環境や家族構成などを知った上で、患者さんや御家族に適した医療を提示し、一緒に検討していく事が出来る。それが出来るのも、医師以外の職種の方々とのコミュニケーションや、地域住民の方々との交流がちゃんと成されているが故にだと思いました。

最後に、これだけ色々な経験を自分にさせてくれた檮原病院の先生方にお礼を言いたいと思います。よさこいで檮原のよさこいチームの救護班としての体験は、特に忘れる事の出来ない経験となりました。地域医療の醍醐味である地域住民の方との交流もこれだけ持てたのは、先生方のご配慮があったからこそだと思います。本当にお世話になりました。